2022 年改訂版 末梢動脈疾患ガイドライン
初版～2022/8/12 更新版　正誤表

記載に誤りがありましたので，お詫び申し上げますとともに下記の通り訂正致します。

（2025.5.15）

訂正箇所	誤	正
p.42　図 4「LEAD 診断のアルゴリズム」一番上のセルとその右下の説明	動脈硬化症のリスクを有する患者*や，間歇性跛行や下肢症状のある患者 65 歳以上. 50～64 歳で粥状硬化の危険因子（糖尿病，喫煙歴，脂質異常症， 高血圧など）あるいは家族歴がある. 50 歳未満で糖尿病+1 つ以上粥状硬化の危険因子がある. 他に粥状硬化性の疾患（冠動脈，頸動脈，腎動脈，腸間膜動脈，の狭窄， あるいは腹部大動脈瘤）がある.	動脈硬化症のリスクを有する患者#や，間歇性跛行や下肢症状のある患者 #65 歳以上. 50～64 歳で粥状硬化の危険因子（糖尿病，喫煙歴，脂質異常症， 高血圧など）あるいは家族歴がある. 50 歳未満で糖尿病+1 つ以上粥状硬化の危険因子がある. 他に粥状硬化性の疾患（冠動脈，頸動脈，腎動脈，腸間膜動脈，の狭窄， あるいは腹部大動脈瘤）がある.
p.47　右段　表 28 の上	iii. 大腿膝窩動脈病変領域	iii. 大腿膝窩動脈領域
p.50　右段　表 29 の上	iv. 膝下動脈病変領域	iv. 膝下動脈領域

p.50 右段下から 3 行目	RCT では 12 ヵ月一次開存率は PTA 群に比べて有意に高かったが （Lutonix 65.2% vs. PTA 52.6%）[468]， わが国の国内で行われた RCT 試験では PTA に比し Lutonix の 12 ヵ月一次開存 率の有効性は示されなかった（Lutonix 58.0% vs. PTA 62.9%）[469]	海外で実施された RCT（LEVANT Ⅱ 試験）において Lutonix の 12 ヵ月一次開存率は PTA 群に比べて有意に高かった（Lutonix 65.2% vs PTA 52.6%）[468]。 （文献 469 を含む 1 文削除）
p.50 左段 14 行目	PREVET Ⅲ	PREVENT Ⅲ
p.52 右段 9 行目	（WIfI grade 1）	（WIfI stage 1）
p.54　表 33「WIfI 分類における ischemic grading」 Grade 1，TP，$TcPO_2$	49～59 mmHg	40～59 mmHg
p.57　図 7「PLAN コンセプトに基づく CLTI の治療法決定のアルゴリズム」中心の上から 6 つ目のセル	血行病変の解剖学的ステージング（GLASS）	血管病変の解剖学的ステージング（GLASS）
p.146 文献 469)	医薬品医療機器総合機構．バルーン拡張式血管形成術用カテーテル 審査結果報告書．https://www.pmda.go.jp/medical_devices/2017/M20170830001/780045000_22900BZX00252000_A100_1.pdf	deleted in proof